熊日1968.09.14

昭和43年(1968年)9月14日　土曜日

副知事・水俣病が焦点

九月県議会

選任提案は会期末か

水俣病 "廃水"の監視を追及

九月定例県議会は、十六日から三十日まで、会期十五日間の日程で開かれる。県提出議案は新空港の建設関係を中心とする総額二千三億五千六百七十三万円の補正予算など三十数件だが、新空港の用地買収が時を越した現在、今県議会の焦点は副知事人事と厚生省の結論間近い水俣病問題などになろう。

◇…大島俊彦副知事の死去で六月定例県議会から懸案となっている副知事人事について、寺本知事は十二日の定例記者会見で「選任議案を九月定例県議会に出したい」とは語ったが、人選などの程度煮詰まったかについては全くふれなかった。

寺本知事はこの問題で「人選は第三者に相談せず、自分で決める」態度であり、提案の時期は会期後半になる見通しである。知事としては、会期途中に"獲中の人物"を自民党県連七役会議に提示し、協力を求めることになろう。

人選の範囲は"庁内外"ということで、庁外の場合は田代由紀男県議会議長がウワサにのぼっている。しかし一部では、田代氏の副知事就任は可能性が薄いとみている。田代氏が旧民主系であり、旧自由系に抵抗があるからだが、県議会内部には「議長経験者の処遇を考えるべきだ。国会への進出が無理なら副知事に」という全般的空気もあり、田代副知事説にはかなり根深いものがある。

一方、人選が庁内にしぼられる場合には、小山岩雄出納長か河端脩総務部長が有力だが、松下勝農政部長も候補者の一人に数えられている。

小山氏は、庁内の序列からいって順当だということのほかに、県福祉会館の建設などに努めた点が評価されている。また河端氏は新空港の用地買収にみせた手腕、松下氏は県庁舎建設での働きが認められている。

今回の副知事人事が注目されるのは次期知事選の思惑がからむためで「もし田代氏が副知事になれば、旧自由系は対抗上次期知事選で、旧自由系である河津自民党県連会長の擁立に動くのではないか」とか「庁内三氏のうちだれが副知事になるにしても、寺本知事が四選に出馬しないならば次期知事との組み合わせを考慮した人選がされるのではないか」との見方などがある。

◇…二十日から始まる本会議での質問戦で焦点となるのは、最近世論の高まった公害問題、特に水俣病問題であろう。社会党から代表質問に立つ西島春雄氏（熊本市）も「質問の第一に水俣病を取り上げる」と言っている。

社会党だけでなく各党も水俣病問題を取り上げることが予想され、寺本知事は最近の部長会議で、水俣病問題に関係のある衛生（環境衛生）企画（公害）民労（生活保護）の三部は、横の連携を密にして県議会に臨むよう指示した。

水俣病で県が追及を受けると予想されるのは、三十四年十二月に寺本知事らがあっせんしてチッソと患者互助会とが結んだ契約の内容と、チッソの廃水に対する監視行政指導が手ぬるかったのではないかという点などであろう。

契約書の第五条には「将来、水俣病が工場廃水に起因することが決定した場合においても、患者は新たな補償金を要求しない」とあるが、現実には厚生省の見解が固まった新たな段階で、訴訟によって補償金をとろうとする動きが出ている。この問題で寺本知事は「関係者からの要望があれば、再あっせんに乗り出す」との考えを県議会でも表明するものとみられる。

また、廃水の監視については、三十四年十二月にサイクレーター（浄化装置）が完成したあとも水銀が海に流出していた点が追及されようが、今回の補正に入熊山船大教授（衛生学）の研究を援助する単県費五十万円を計上しており、今後の監視強化を約束することになろう。